

平鹿平野地区の事業の効用に関する説明資料

1. 地区の概要

- (1) 地 域：秋田県横手市、湯沢市、大仙市
- (2) 受 益 面 積：10,041ha
- (3) 事 業 目 的：用水改良 10,041ha
- (4) 主 要 工 事 計 画：頭首工2箇所、用水路29.5km（8路線）
- (5) 国 営 事 業 費：39,000百万円（平成23年度時点 27,097百万円）
- (6) 工 期：平成13年度～平成27年度
（平成13年度～平成24年度 工事期間）
（平成25年度～平成27年度 施設機能監視期間）

2. 投資効率の算定

区 分	算 定 式	数値（千円）	備 考
総事業費	①	143,577,290	
年総効果額	②	9,964,131	
廃用損失額	③	731,423	廃止する施設の残存価値
総合耐用年数	④	45年	当該事業及び関連事業の耐用年数
還元率×（1+建設利息率）	⑤	0.0524	総合耐用年数に応じ年総効果額から妥当投資額を算定するための係数（T=13年）
妥当投資額	⑥=②/⑤－③	189,423,748	
投資効率	⑦=⑥/①	1.31	

3. 年総効果額の総括

区 分 評価項目	年総効果額 （千円）	効 果 の 要 因
作 物 生 産 効 果	563,243	・ 用水の安定供給、ほ場条件の改善による作物生産量の増減
営農経費節減効果	4,448,524	・ 用水改良に伴う水管理作業の合理化及びほ場区画等の改善による営農経費の節減
維持管理費節減効果	1,004,797	・ 施設の新設、改修、廃止による維持管理費の増減
更 新 効 果	3,720,971	・ 施設の改修による現況施設機能（農業生産）の維持
安 全 性 向 上 効 果	102,816	・ 安全施設（用水路への転落防止柵）を整備することによる安全性の向上
公共施設保全効果	84,232	・ 補償される公共施設（橋梁等）の機能維持
水辺環境整備効果	39,548	・ 魚類の生息環境に配慮した魚道整備を行うことによる水辺環境の保全
計	9,964,131	
廃 用 損 失 額	731,423	・ 耐用年数が尽きていない廃止施設の残存価値

4. 効果額の算定方法

(1) 作物生産効果

○効果の考え方

用水改良及びほ場整備の実施により、用水の安定供給やほ場条件の改善が図られることによって、作物別作付面積の増減（作付増減効果）と単位面積当たり収量が増加（単収増加効果）する効果。

○対象作物

水稻（主食用）、飼料発酵用稲、加工用米、飼料用米、米粉用米、小麦、大豆、ばれいしょ、さといも、すいか、きゅうり、なす、トマト、はくさい、だいこん、アスパラガス、えだまめ、キャベツ、露地メロン、ほうれんそう、モロヘイヤ、にんにく、そらまめ、ピーマン、ねぎ、にら、未成熟とうもろこし、食用菊、かぼちゃ、小ぎく、ゆり、青刈りとうもろこし、地力増進作物、そば（34品目）

○年効果額算定式

生産増減量×生産物単価×純益率

○年効果額の算定（算定例：水稻（主食用）、加工用米、大豆、すいか）

作物名	作付面積（ha）			効果要因	単収増 (kg/10a)	増加生産量 (t)	単価 (円/t)	増加粗収益 (千円)	純益率 (%)	年効果額 (千円)
	現況	計画	増減							
水稻 （主食用）	① 8,030	② 6,560	③=②-① △1,470	作付減	④（現況） 596	⑤=③×④ △8,761	⑥ 226	⑦=⑤×⑥ △1,979,986	⑧ 1%	⑨=⑦×⑧ △19,800
				単収増 乾田化Ⅰ	④（増） 18	⑤=②×④ 169	⑥ 226	⑦=⑤×⑥ 38,194	⑧ 74%	⑨=⑦×⑧ 28,264
				単収増 乾田化Ⅱ	④（増） 36	⑤=②×④ 225	⑥ 226	⑦=⑤×⑥ 50,850	⑧ 74%	⑨=⑦×⑧ 37,629
				単収増 水管理Ⅰ	④（増） 12	⑤=②×④ 467	⑥ 226	⑦=⑤×⑥ 105,542	⑧ 74%	⑨=⑦×⑧ 78,101
				単収増 水管理Ⅱ	④（増） 18	⑤=②×④ 480	⑥ 226	⑦=⑤×⑥ 108,480	⑧ 74%	⑨=⑦×⑧ 80,275
				単収増 客土	④（増） 30	⑤=②×④ 51	⑥ 226	⑦=⑤×⑥ 11,526	⑧ 74%	⑨=⑦×⑧ 8,529
				計						212,998
加工用米	① 0	② 73	③=②-① 73	作付増 乾田化Ⅰ	④（計画） 614	⑤=③×④ 448	⑥ 130	⑦=⑤×⑥ 58,240	⑧ 1%	⑨=⑦×⑧ 582
				作付増 乾田化Ⅱ	④（計画） 632	⑤=③×④ 303	⑥ 130	⑦=⑤×⑥ 39,390	⑧ 1%	⑨=⑦×⑧ 394
				作付増 水管理Ⅰ	④（計画） 608	⑤=③×④ 1,830	⑥ 130	⑦=⑤×⑥ 237,900	⑧ 1%	⑨=⑦×⑧ 2,379
				作付増 水管理Ⅱ	④（計画） 614	⑤=③×④ 1,265	⑥ 130	⑦=⑤×⑥ 164,450	⑧ 1%	⑨=⑦×⑧ 1,645
				作付増 客土	④（計画） 626	⑤=③×④ 81	⑥ 130	⑦=⑤×⑥ 10,530	⑧ 1%	⑨=⑦×⑧ 105
				計						5,105

作物名	作付面積 (ha)			効果 要因	単収増 (kg/10a)	増加 生産量 (t)	単価 (千円/t)	増加粗収益 (千円)	純 益 率 (%)	年効果額 (千円)
	現況	計画	増減							
大豆	① 115	② 508	③=②-① 393	作付増	④(計画) 190	⑤=③×④ 747	⑥ 243	⑦=⑤×⑥ 181,521	⑧ 0%	⑨=⑦×⑧ —
				単収増	④(増) 14	⑤=①×④ 16	⑥ 243	⑦=⑤×⑥ 3,888	⑧ 68%	⑨=⑦×⑧ 2,644
				計						2,644
すいか	① 114	② 331	③=②-① 217	作付増	④(計画) 3,708	⑤=③×④ 8,046	⑥ 87	⑦=⑤×⑥ 700,002	⑧ 3%	⑨=⑦×⑧ 21,000
				単収増	④(増) 484	⑤=①×④ 552	⑥ 87	⑦=⑤×⑥ 48,024	⑧ 74%	⑨=⑦×⑧ 35,538
				計						56,538
合計	9,525	9,507								563,243

※主な作物を事例として示す。その他の作物も含めた詳細については「平鹿平野地区の事業の効用に関する詳細」を参照。

- ・作付面積：平鹿平野地区国営かんがい排水事業促進協議会営農検討部会で決定された作物別作付け面積をベースにして算定。
- ・単収：秋田県農林水産統計年報による最近5ヶ年の平均単収等。
- ・生産物単価：農業物価統計による最近5ヶ年の価格に消費者物価指数を反映した価格等。
- ・純益率：経済効果測定に必要な諸係数通知による標準値等を使用。

(2) 営農経費節減効果

○効果の考え方

用水の安定供給及びほ場整備による区画の拡大等により、ほ場内の作業効率の向上が図られ作物生産に要する経費が節減される効果。

○対象作物

水稻（主食用）、飼料発酵用稲、加工用米、飼料用米、米粉用米、小麦、大豆、ばれいしょ、さといも、すいか、きゅうり、なす、トマト、はくさい、だいこん、アスパラガス、えだまめ、キャベツ、露地メロン、ほうれんそう、モロヘイヤ、にんにく、そらまめ、ピーマン、ねぎ、にら、未成熟とうもろこし、かぼちゃ、青刈りとうもろこし、地力増進作物（30品目）

○効果算定式

（現況単位面積当り営農経費－計画単位面積当り営農経費）×効果発生面積

○年効果額の算定

算定例（作物名は当該類型に分類される代表作物名を記載）

区画整理の水稻：未整理湿田・半湿田 → 1ha区画乾田
 水管理改良のみの水稻：30a区画乾田 → 30a区画乾田
 区画整理の大豆：未整理湿田・半湿田 → 1ha区画乾田
 区画整理のすいか：小区画（10～29a）乾田 → 30a区画乾田

作物名	ha 当 た り 営農経費				ha 当 た り 節減額 (円)	効果発生 面積 (ha)	年効果額 (千円)
	労働費 (円)		機械等経費 (円)		⑤ = $\frac{(①+③)}{(②+④)}$	⑥	⑦ = ⑤ × ⑥
	現況①	計画②	現況③	計画④			
水 稻 (区画整理) (水管理改良)	421, 378	139, 712	1, 448, 582	711, 864	1, 018, 384	1, 225	1, 247, 520
水 稻 (水管理改良)	204, 258	195, 998	700, 776	700, 776	8, 260	2, 599	21, 468
一般作物 (大豆) (区画整理)	223, 610	71, 508	517, 215	315, 833	353, 484	290	102, 510
果菜類 (すいか) (区画整理)	2, 332, 860	1, 986, 058	2, 173, 478	1, 648, 142	872, 138	156	136, 054
合 計							4, 448, 524

※主な作物を事例として示す。その他の作物も含めた詳細については「平鹿平野地区の事業の効用に関する詳細」を参照。

- ・ 現況経費 (①, ③) : 労働費は、国営平鹿平野土地改良事業計画書を基にしており、労働単価については、平成22年度新規採択希望地区の経済効果算定に係る労賃等について（平成22年3月31日東北農政局計画部事業計画課課長補佐（計画調整））。
機械経費は、国営平鹿平野土地改良事業計画書を基に、「土地改良事業の費用対効果分析に必要な諸係数について」に示す支出済費用換算係数により補正。
- ・ 計画経費 (②, ④) : 労働費は、国営平鹿平野土地改良事業計画書を基にしており、労働単価については、平成22年度新規採択希望地区の経済効果算定に係る労賃等について（平成22年3月31日東北農政局計画部事業計画課課長補佐（計画調整））。
機械経費は、国営平鹿平野土地改良事業計画書を基に、「土地改良事業の費用対効果分析に必要な諸係数について」に示す支出済費用換算係数により補正。
- ・ 効果発生面積 : 平鹿平野地区国営かんがい排水事業促進協議会営農検討部会で決定された作物別作付け面積をベースにして算定。

(3) 維持管理費節減効果

○効果の考え方

土地改良施設の新設、改修、廃止により、従前に要していた施設の維持管理費が増減する効果。

○対象施設

頭首工、用水管理施設、用水路、排水路、農道、揚水機場

○効果算定式

現況維持管理費－計画維持管理費

○年効果額の算定

現況維持管理費 (千円) ①	計画維持管理費 (千円) ②	年効果額 (千円) ③=①-②	備 考
1,311,021	306,224	1,004,797	

- ・ 現況維持管理費 (①) : 国営平鹿平野土地改良事業計画書を基に、「土地改良事業の費用対効果分析に必要な諸係数について」に示す支出済費用換算係数により補正。
- ・ 計画維持管理費 (②) : 国営平鹿平野土地改良事業計画書を基に、「土地改良事業の費用対効果分析に必要な諸係数について」に示す支出済費用換算係数により補正。

(4) 更新効果

○効果の考え方

老朽化した土地改良施設を更新することにより、現況施設の機能及び従前の農業生産が維持される効果。

○対象施設

頭首工、用水路、排水路、農道、ダム

○効果算定式

最経済的事業費×還元率

○年効果額の算定 (算定例：頭首工、用水路)

対 象 施 設	最経済的 事業費 (千円) ①	還元率 ②	年効果額 (千円) ③=①×②	備 考
皆瀬頭首工	2,778,448	0.0466	129,475	耐用年数50年
成瀬頭首工	1,488,337	0.0466	69,357	耐用年数50年
成瀬1号幹線用水路	165,128	0.0578	9,544	耐用年数30年
皆瀬1号幹線用水路	1,264,008	0.0578	73,060	耐用年数30年
合 計			3,720,971	

※主な施設を事例として示す。その他の施設も含めた詳細については「平鹿平野地区の事業の効用に関する詳細」を参照

- ・最経済的事業費（①）：現況施設と同じ機能を有する施設を再建設する場合における最も経済的な事業費。
更新施設の既投資分の事業費を精査するとともに、国営平鹿平野土地改良事業計画書を基に、「土地改良事業の費用対効果分析に必要な諸係数について」に示す支出済費用換算係数により補正。
- ・還元率（②）：各施設の耐用年数と割引率を基に算出される係数。

（５）安全性向上効果

○効果の考え方

既設の用水路を改修する際に社会的要請に基づき、土地改良施設の一部として用水路への転落防止柵を設置することにより、事故率の減少等の安全性が向上する効果。

○対象施設

幹線用水路転落防止柵

○年効果額算定式

安全性確保投資額×還元率－年間維持管理費

○年効果額の算定

対象施設	設置（確保）投資額 （千円） ①	還元率 ②	計画 維持管理費 （千円） ③	年効果額 （千円） ④＝①×②－③	備 考
幹線用水路 転落防止柵	837,687	0.1233	471	102,816	耐用年数10年

- ・設置（確保）投資額（①）：安全性確保のための機能投資額。
既投資分の事業費を精査し、「土地改良事業の費用対効果分析に必要な諸係数について」に示す支出済費用換算係数により補正。
- ・還元率（②）：各施設の耐用年数と割引率を基に算出される係数。
- ・計画維持管理費（③）：転落防止柵の維持修繕に要する年間経費。

（６）公共施設保全効果

○効果の考え方

本事業において、幹線用水路を改修する際に橋梁の架け替え等を補償工事として行うことに伴い、地域の利便性が確保されるとともに、付け替えた施設の耐用年数が増加すること等により付随的に便益が向上する効果。

○対象施設

橋梁工、函渠工

○年効果額算定式

維持管理費節減効果＋一般交通等経費節減効果＋更新効果

○年効果額の算定

対象施設	維持管理費 節減効果 (千円) ①	一般交通等 経費節減効果 (千円) ②	更新効果 (千円) ③	年効果額 (千円) ④=①+②+③
橋梁工、函渠工	—	—	84,232	84,232

- ・維持管理費節減効果(①)：対象施設は現機能と同等の機能回復を行う補償工事であるため、維持管理費の増減は生じないものとして計上しない。
- ・一般交通等経費節減効果(②)：対象施設は現機能と同等の機能回復を行う補償工事であるため、走行経費の増減は生じないものとして計上しない。
- ・更新効果(③)：更新施設の既投資分の事業費を精査し、「土地改良事業の費用対効果分析に必要な諸係数について」に示す支出済費用換算係数により補正。

(7) 水辺環境保全効果

○効果の考え方

本事業で実施する成瀬頭首工、皆瀬頭首工の改修において魚道を設置することにより、水辺環境が保全される効果。

○対象施設
頭首工

○年効果額算定式

環境に配慮した機能を付加するために要する追加投資経費×還元率

○年効果額の算定

投資施設名	追加投資額 (千円) ①	還元率 ②	年効果額(千円) ③=①×②	備考
頭首工魚道	848,667	0.0466	39,548	耐用年数50年

※魚道の耐用年数は、頭首工の一体施設であることから、50年（鉄筋コンクリート）とする。

- ・追加投資経費(①)：更新施設の既投資分の事業費を精査し、「土地改良事業の費用対効果分析に必要な諸係数について」に示す支出済費用換算係数により補正。
- ・還元率(②)：施設の耐用年数と割引率を基に算出される係数。

(8) 廃用損失額

○効果の考え方

本事業及び関連事業により廃止する施設または改修を行う施設のうち、耐用年数が尽きていない施設については、廃止、改修によって施設の有する残存価値が失われる。この価値を廃用損失額（デットコスト）として算定。

○対象施設

頭首工、用水路、排水路、農道、揚水機場、橋梁工、函渠工

○廃用損失額算定式
償却資産額×残存率

○廃用損失額の算定（算定例：頭首工、用水路）

現況施設 (廃用施設)	設置年	償却資産額 (千円) ①	残存率			廃用損失額 (千円) ⑤=①×④
			廃用時までの使用年数 ②	今後の使用可能年数 ③	残存率 ④=③/(②+③)	
皆瀬頭首工	昭和38年	2,875,672	46	4	0.08	230,054
成瀬頭首工	昭和47年	509,447	40	10	0.20	101,889
成瀬1号幹線用水路	昭和54年	196,627	30	0	0.00	0
皆瀬1号幹線用水路	昭和53年	1,426,751	31	0	0.00	0
合 計						731,423

※主な施設を事例として示す。その他の施設も含めた詳細については「平鹿平野地区の事業の効用に関する詳細」を参照

・償却資産額（①）：廃用施設の事業費から廃棄価格（スクラップとしての価格）を差し引いた額。
国営平鹿平野土地改良事業計画書を基に、「土地改良事業の費用対効果分析に必要な諸係数について」に示す支出済費用換算係数により補正。

5. 評価に使用した資料

【共通】

- ・農林水産省構造改善局計画部（監修）（1998）「[改訂] 解説土地改良の経済効果」大成出版社

【費用】

- ・当該事業費及び関連事業費に係る一般に公表されていない諸元については、東北農政局平鹿平野農業水利事業所調べ（平成22年）

【便益】

- ・東北農政局「国営平鹿平野土地改良事業計画書」
- ・農林業センサス（平成7年、平成12年、平成17年）
- ・東北農政局秋田統計・情報センター（第50次～第54次）「秋田農林水産統計年報」
- ・東北農政局秋田農政事務所（第55次～第56次）「秋田農林水産統計年報」
- ・土地改良事業の費用対効果分析に必要な諸係数について（平成19年3月28日農林水産省農村振興局企画部長通知（一部改正：平成22年3月31日農林水産省農村振興局整備部長通知））
- ・効果算定に必要な各種諸元については、東北農政局平鹿平野農業水利事業所調べ（平成22年）

平鹿平野地区の事業の効用に関する詳細

1. 投資効率の算定

区 分	算 定 式	数値（千円）	備 考
総事業費	①	143,577,290	
年総効果額	②	9,964,131	
廃用損失額	③	731,423	廃止する施設の残存価値
総合耐用年数	④	45年	当該事業及び関連事業の耐用年数
還元率×（1+建設利息率）	⑤	0.0524	総合耐用年数に応じ年総効果額から妥当投資額を算定するための係数（T=13年）
妥当投資額	⑥＝②/⑤－③	189,423,748	
投資効率	⑦＝⑥/①	1.31	

2. 年総効果額の総括

（１）作物生産効果

区 分 評価項目	年総効果額 （千円）	効 果 の 要 因
作物生産効果	564,243	・用水の安定供給、ほ場条件の改善による作物生産量の増減
営農経費節減効果	4,448,524	・用水改良に伴う水管理作業の合理化及びほ場区画等の改善による営農経費の節減
維持管理費節減効果	1,004,797	・施設の新設、改修、廃止による維持管理費の増減
更新効果	3,720,971	・施設の改修による現況施設機能（農業生産）の維持
安全性向上効果	102,816	・安全施設（用水路への転落防止柵）を整備することによる安全性の向上
公共施設保全効果	84,232	・補償される公共施設（橋梁等）の機能維持
水辺環境整備効果	39,548	・魚類の生息環境に配慮した魚道整備を行うことによる水辺環境の保全
計	9,964,131	
廃用損失額	731,423	・耐用年数が尽きていない廃止施設の残存価値

3. 効果額の算定方法

(1) 作物生産効果

	作物名	作付面積 (ha)			効果要因	単収増 (kg/10a)	増加生産量 (t)	単価 (千円/t)	増加粗収益 (千円)	純益率 (%)	年効果額 (千円)
		現況	計画	増減							
田	水稻 (主食用)	① 8,030	② 6,560	③=②-① △1,470	作付減	④(現況) 596	⑤=③×④ △8,761	⑥ 226	⑦=⑤×⑥ △1,979,986	⑧ 1%	⑨=⑦×⑧ △19,800
			941		単収増 乾田化Ⅰ	④(増) 18	⑤=②×④ 169	⑥ 226	⑦=⑤×⑥ 38,194	⑧ 74%	⑨=⑦×⑧ 28,264
			625		単収増 乾田化Ⅱ	④(増) 36	⑤=②×④ 225	⑥ 226	⑦=⑤×⑥ 50,850	⑧ 74%	⑨=⑦×⑧ 37,629
			3,891		単収増 水管理Ⅰ	④(増) 12	⑤=②×④ 467	⑥ 226	⑦=⑤×⑥ 105,542	⑧ 74%	⑨=⑦×⑧ 78,101
			2,669		単収増 水管理Ⅱ	④(増) 18	⑤=②×④ 480	⑥ 226	⑦=⑤×⑥ 108,480	⑧ 74%	⑨=⑦×⑧ 80,275
			169		単収増 客土	④(増) 30	⑤=②×④ 51	⑥ 226	⑦=⑤×⑥ 11,526	⑧ 74%	⑨=⑦×⑧ 8,529
					計						212,998
	飼料発酵 用稲	① 0	② 10	③=②-① 10	作付増 乾田化Ⅰ	④(計画) 1,638	⑤=③×④ 164	⑥ 29	⑦=⑤×⑥ 4,756	⑧ 5%	⑨=⑦×⑧ 238
		0	7	7	作付増 乾田化Ⅱ	④(計画) 1,685	⑤=③×④ 118	⑥ 29	⑦=⑤×⑥ 3,422	⑧ 5%	⑨=⑦×⑧ 171
		0	41	41	作付増 水管理Ⅰ	④(計画) 1,622	⑤=③×④ 665	⑥ 29	⑦=⑤×⑥ 19,285	⑧ 5%	⑨=⑦×⑧ 964
		0	28	28	作付増 水管理Ⅱ	④(計画) 1,638	⑤=③×④ 459	⑥ 29	⑦=⑤×⑥ 13,311	⑧ 5%	⑨=⑦×⑧ 666
		0	2	2	作付増 客土	④(計画) 1,670	⑤=③×④ 33	⑥ 29	⑦=⑤×⑥ 957	⑧ 5%	⑨=⑦×⑧ 48
					計						2,087
	加工用米	① 0	② 73	③=②-① 73	作付増 乾田化Ⅰ	④(計画) 614	⑤=③×④ 448	⑥ 130	⑦=⑤×⑥ 58,240	⑧ 1%	⑨=⑦×⑧ 582
		0	48	48	作付増 乾田化Ⅱ	④(計画) 632	⑤=③×④ 303	⑥ 130	⑦=⑤×⑥ 39,390	⑧ 1%	⑨=⑦×⑧ 394
		0	301	301	作付増 水管理Ⅰ	④(計画) 608	⑤=③×④ 1,830	⑥ 130	⑦=⑤×⑥ 237,900	⑧ 1%	⑨=⑦×⑧ 2,379
		0	206	206	作付増 水管理Ⅱ	④(計画) 614	⑤=③×④ 1,265	⑥ 130	⑦=⑤×⑥ 164,450	⑧ 1%	⑨=⑦×⑧ 1,645
		0	13	13	作付増 客土	④(計画) 626	⑤=③×④ 81	⑥ 130	⑦=⑤×⑥ 10,530	⑧ 1%	⑨=⑦×⑧ 105
					計						5,105

	作物名	作付面積 (ha)			効果 要因	単収増 (kg/10a)	増加 生産量 (t)	単価 (千円/t)	増加粗収益 (千円)	純 益 率 (%)	年効果額 (千円)
		現況	計画	増減							
田	飼料用米	① 0	② 4	③=②-① 4	作付増 乾田化Ⅰ	④(計画) 754	⑤=③×④ 30	⑥ 29	⑦=⑤×⑥ 870	⑧ 5%	⑨=⑦×⑧ 44
		0	2	2	作付増 乾田化Ⅱ	④(計画) 776	⑤=③×④ 16	⑥ 29	⑦=⑤×⑥ 464	⑧ 5%	⑨=⑦×⑧ 23
		0	15	15	作付増 水管理Ⅰ	④(計画) 747	⑤=③×④ 112	⑥ 29	⑦=⑤×⑥ 3,248	⑧ 5%	⑨=⑦×⑧ 162
		0	11	11	作付増 水管理Ⅱ	④(計画) 754	⑤=③×④ 83	⑥ 29	⑦=⑤×⑥ 2,407	⑧ 5%	⑨=⑦×⑧ 120
		0	1	1	作付増 客土	④(計画) 769	⑤=③×④ 8	⑥ 29	⑦=⑤×⑥ 232	⑧ 5%	⑨=⑦×⑧ 12
					計						361
	米粉用米	① 0	② 6	③=②-① 6	作付増 乾田化Ⅰ	④(計画) 614	⑤=③×④ 37	⑥ 78	⑦=⑤×⑥ 2,886	⑧ 1%	⑨=⑦×⑧ 29
		0	4	4	作付増 乾田化Ⅱ	④(計画) 632	⑤=③×④ 25	⑥ 78	⑦=⑤×⑥ 1,950	⑧ 1%	⑨=⑦×⑧ 20
		0	24	24	作付増 水管理Ⅰ	④(計画) 608	⑤=③×④ 146	⑥ 78	⑦=⑤×⑥ 11,388	⑧ 1%	⑨=⑦×⑧ 114
		0	17	17	作付増 水管理Ⅱ	④(計画) 614	⑤=③×④ 104	⑥ 78	⑦=⑤×⑥ 8,112	⑧ 1%	⑨=⑦×⑧ 81
		0	1	1	作付増 客土	④(計画) 626	⑤=③×④ 6	⑥ 78	⑦=⑤×⑥ 468	⑧ 1%	⑨=⑦×⑧ 5
					計						249
	小麦	① 58	② 49	③=②-① △9	作付減	④(現況) 167	⑤=③×④ △15	⑥ 21	⑦=⑤×⑥ △315	⑧ 0%	⑨=⑦×⑧ —
					単収増	④(増) 0	⑤=②×④ —	⑥ 21	⑦=⑤×⑥ —	⑧ 72%	⑨=⑦×⑧ —
					計						0
	大豆	① 115	② 508	③=②-① 393	作付増	④(計画) 190	⑤=③×④ 747	⑥ 243	⑦=⑤×⑥ 181,521	⑧ 0%	⑨=⑦×⑧ —
					単収増	④(増) 14	⑤=①×④ 16	⑥ 243	⑦=⑤×⑥ 3,888	⑧ 68%	⑨=⑦×⑧ 2,644
					計						2,644
	ばれいし よ	① 21	② 47	③=②-① 26	作付増	④(計画) 1,911	⑤=③×④ 497	⑥ 99	⑦=⑤×⑥ 49,203	⑧ 22%	⑨=⑦×⑧ 10,825
					単収増	④(増) 249	⑤=①×④ 52	⑥ 99	⑦=⑤×⑥ 5,148	⑧ 79%	⑨=⑦×⑧ 4,067
					計						14,892

	作物名	作付面積 (ha)			効果 要因	単収増 (kg/10a)	増加 生産量 (t)	単価 (千円/t)	増加粗収益 (千円)	純 益 率 (%)	年効果額 (千円)
		現況	計画	増減							
田	さといも	① 15	② 33	③=②-① 18	作付増	④(計画) 980	⑤=③×④ 176	⑥ 413	⑦=⑤×⑥ 72,688	⑧ 0%	⑨=⑦×⑧ —
					単収増	④(増) 226	⑤=①×④ 34	⑥ 413	⑦=⑤×⑥ 14,042	⑧ 73%	⑨=⑦×⑧ 10,251
					計						10,251
	すいか	① 114	② 331	③=②-① 217	作付増	④(計画) 3,708	⑤=③×④ 8,046	87	⑦=⑤×⑥ 700,002	⑧ 3%	⑨=⑦×⑧ 21,000
					単収増	④(増) 484	⑤=①×④ 552	87	⑦=⑤×⑥ 48,024	⑧ 74%	⑨=⑦×⑧ 35,538
					計						56,538
	きゅうり	① 33	② 90	③=②-① 57	作付増	④(計画) 3,619	⑤=③×④ 2,063	184	⑦=⑤×⑥ 379,592	⑧ 3%	⑨=⑦×⑧ 11,388
					単収増	④(増) 472	⑤=①×④ 156	184	⑦=⑤×⑥ 28,704	⑧ 74%	⑨=⑦×⑧ 21,241
					計						32,629
	なす	① 78	② 104	③=②-① 26	作付増	④(計画) 1,333	⑤=③×④ 347	192	⑦=⑤×⑥ 66,624	⑧ 0%	⑨=⑦×⑧ —
					単収増	④(増) 174	⑤=①×④ 136	192	⑦=⑤×⑥ 26,112	⑧ 72%	⑨=⑦×⑧ 18,801
					計						18,801
	トマト	① 21	② 47	③=②-① 26	作付増	④(計画) 4,160	⑤=③×④ 1,082	230	⑦=⑤×⑥ 248,860	⑧ 3%	⑨=⑦×⑧ 7,466
					単収増	④(増) 543	⑤=①×④ 114	230	⑦=⑤×⑥ 26,220	⑧ 74%	⑨=⑦×⑧ 19,403
					計						26,869
	はくさい	① 3	② 48	③=②-① 45	作付増	④(計画) 2,718	⑤=③×④ 1,223	43	⑦=⑤×⑥ 52,589	⑧ 20%	⑨=⑦×⑧ 10,518
					単収増	④(増) 313	⑤=①×④ 9	43	⑦=⑤×⑥ 387	⑧ 79%	⑨=⑦×⑧ 306
					計						10,824
	だいこん	① 3	② 63	③=②-① 60	作付増	④(計画) 2,915	⑤=③×④ 1,749	52	⑦=⑤×⑥ 90,948	⑧ 18%	⑨=⑦×⑧ 16,371
					単収増	④(増) 380	⑤=①×④ 11	52	⑦=⑤×⑥ 572	⑧ 78%	⑨=⑦×⑧ 446
					計						16,817

	作物名	作付面積 (ha)			効果 要因	単収増 (kg/10a)	増加 生産量 (t)	単価 (千円/t)	増加粗収益 (千円)	純 益 率 (%)	年効果額 (千円)
		現況	計画	増減							
田	アスパラ ガス	① 21	② 57	③=②-① 36	作付増	④(計画) 568	⑤=③×④ 204	⑥ 798	⑦=⑤×⑥ 162,792	⑧ 20%	⑨=⑦×⑧ 32,558
					単収増	④(増) 65	⑤=①×④ 14	⑥ 798	⑦=⑤×⑥ 11,172	⑧ 79%	⑨=⑦×⑧ 8,826
					計						41,384
	えだまめ	① 76	② 268	③=②-① 192	作付増	④(計画) 542	⑤=③×④ 1,041	⑥ 397	⑦=⑤×⑥ 413,277	⑧ 3%	⑨=⑦×⑧ 12,398
					単収増	④(増) 71	⑤=①×④ 54	⑥ 397	⑦=⑤×⑥ 21,438	⑧ 74%	⑨=⑦×⑧ 15,864
					計						28,262
	キャベツ	① 7	② 25	③=②-① 18	作付増	④(計画) 2,481	⑤=③×④ 447	⑥ 60	⑦=⑤×⑥ 26,820	⑧ 20%	⑨=⑦×⑧ 5,364
					単収増	④(増) 285	⑤=①×④ 20	⑥ 60	⑦=⑤×⑥ 1,200	⑧ 79%	⑨=⑦×⑧ 948
					計						6,312
	露地 メロン	① 10	② 16	③=②-① 6	作付増	④(計画) 1,551	⑤=③×④ 93	⑥ 339	⑦=⑤×⑥ 31,527	⑧ 3%	⑨=⑦×⑧ 946
					単収増	④(増) 202	⑤=①×④ 20	⑥ 339	⑦=⑤×⑥ 6,780	⑧ 74%	⑨=⑦×⑧ 5,017
					計						5,963
	ほうれん そう	① 4	② 57	③=②-① 53	作付増	④(計画) 713	⑤=③×④ 378	⑥ 464	⑦=⑤×⑥ 175,392	⑧ 0%	⑨=⑦×⑧ —
					単収増	④(増) 82	⑤=①×④ 3	⑥ 464	⑦=⑤×⑥ 1,392	⑧ 73%	⑨=⑦×⑧ 1,016
					計						1,016
	モロヘイ ヤ	① 0	② 6	③=②-① 6	作付増	④(計画) 551	⑤=③×④ 33	⑥ 748	⑦=⑤×⑥ 24,684	⑧ 20%	⑨=⑦×⑧ 4,937
					単収増	④(増) 63	⑤=①×④ —	⑥ 748	⑦=⑤×⑥ —	⑧ 79%	⑨=⑦×⑧ —
					計						4,937
	にんにく	① 6	② 9	③=②-① 3	作付増	④(計画) 728	⑤=③×④ 22	⑥ 732	⑦=⑤×⑥ 16,104	⑧ 20%	⑨=⑦×⑧ 3,221
					単収増	④(増) 84	⑤=①×④ 5	⑥ 732	⑦=⑤×⑥ 3,660	⑧ 79%	⑨=⑦×⑧ 2,891
					計						6,112

	作物名	作付面積 (ha)			効果 要因	単収増 (kg/10a)	増加 生産量 (t)	単価 (千円/t)	増加粗収益 (千円)	純 益 率 (%)	年効果額 (千円)
		現況	計画	増減							
田	そらまめ	① 0	② 6	③=②-① 6	作付増	④(計画) 1,156	⑤=③×④ 69	⑥ 319	⑦=⑤×⑥ 22,011	⑧ 28%	⑨=⑦×⑧ 6,163
					単収増	④(増) 86	⑤=①×④ —	⑥ 319	⑦=⑤×⑥ —	⑧ 81%	⑨=⑦×⑧ —
					計						6,163
	ピーマン	① 3	② 6	③=②-① 3	作付増	④(計画) 1,314	⑤=③×④ 39	⑥ 343	⑦=⑤×⑥ 13,377	⑧ 0%	⑨=⑦×⑧ —
					単収増	④(増) 171	⑤=①×④ 5	⑥ 343	⑦=⑤×⑥ 1,715	⑧ 72%	⑨=⑦×⑧ 1,235
					計						1,235
	ねぎ	① 7	② 47	③=②-① 40	作付増	④(計画) 2,391	⑤=③×④ 956	⑥ 160	⑦=⑤×⑥ 152,960	⑧ 0%	⑨=⑦×⑧ —
					単収増	④(増) 275	⑤=①×④ 19	⑥ 160	⑦=⑤×⑥ 3,040	⑧ 73%	⑨=⑦×⑧ 2,219
					計						2,219
	にら	① 4	② 6	③=②-① 2	作付増	④(計画) 1,868	⑤=③×④ 37	⑥ 304	⑦=⑤×⑥ 11,248	⑧ 20%	⑨=⑦×⑧ 2,250
					単収増	④(増) 215	⑤=①×④ 9	⑥ 304	⑦=⑤×⑥ 2,736	⑧ 79%	⑨=⑦×⑧ 2,161
					計						4,411
	未成熟 とうもろ こし	① 10	② 38	③=②-① 28	作付増	④(計画) 719	⑤=③×④ 201	⑥ 200	⑦=⑤×⑥ 40,200	⑧ 3%	⑨=⑦×⑧ 1,206
					単収増	④(増) 94	⑤=①×④ 9	⑥ 200	⑦=⑤×⑥ 1,800	⑧ 74%	⑨=⑦×⑧ 1,332
					計						2,538
	食用菊	① 13	② 20	③=②-① 7	作付増	④(計画) 1,371	⑤=③×④ 96	⑥ 854	⑦=⑤×⑥ 81,984	⑧ 12%	⑨=⑦×⑧ 9,838
					単収増	④(増) 158	⑤=①×④ 21	⑥ 854	⑦=⑤×⑥ 17,934	⑧ 76%	⑨=⑦×⑧ 13,630
					計						23,468
	かぼちゃ	① 33	② 57	③=②-① 24	作付増	④(計画) 880	⑤=③×④ 211	⑥ 148	⑦=⑤×⑥ 31,228	⑧ 3%	⑨=⑦×⑧ 937
					単収増	④(増) 115	⑤=①×④ 38	⑥ 148	⑦=⑤×⑥ 5,624	⑧ 74%	⑨=⑦×⑧ 4,162
					計						5,099

	作物名	作付面積 (ha)			効果 要因	単収増 (kg/10a)	増加 生産量 (t)	単価 (千円/t)	増加粗収益 (千円)	純 益 率 (%)	年効果額 (千円)
		現況	計画	増減							
田	小ぎく	① 0	② 19	③=②-① 19	作付増	④(計画) 21,241 (本/10a)	⑤=③×④ 4,036 (千本/ha)	⑥ 51 (円/本)	⑦=⑤×⑥ 205,836	⑧ 0%	⑨=⑦×⑧ —
					単収増	④(増) 0	⑤=①×④ —	⑥ 51	⑦=⑤×⑥ —	⑧ 73%	⑨=⑦×⑧ —
					計						0
	ゆり	① 0	② 10	③=②-① 10	作付増	④(計画) 15,205 (本/10a)	⑤=③×④ 1,521 (千本/ha)	⑥ 96	⑦=⑤×⑥ 146,016	⑧ 10%	⑨=⑦×⑧ 14,602
					単収増	④(増) 0	⑤=①×④ —	⑥ 96	⑦=⑤×⑥ —	⑧ 75%	⑨=⑦×⑧ —
					計						14,602
	青刈り とうもろ こし	① 142	② 90	③=②-① △52	作付減	④(現況) 4,854	⑤=③×④ △2,384	⑥ 29	⑦=⑤×⑥ △69,136	⑧ 5%	⑨=⑦×⑧ △3,457
					単収増	④(増) 917	⑤=②×④ 825	⑥ 29	⑦=⑤×⑥ 23,925	⑧ 8%	⑨=⑦×⑧ 1,914
					計						△1,543
	地力増進 作物	① 698	② 0	③=②-① △698	作付減						
					単収増						
					計						0
	そば	① 0	② 247	③=②-① 247	作付増	④(計画) 39	⑤=③×④ 96	⑥ 131	⑦=⑤×⑥ 12,576	⑧ 0%	⑨=⑦×⑧ —
					単収増	④(増) 0	⑤=①×④ —	⑥ 131	⑦=⑤×⑥ —	⑧ 0%	⑨=⑦×⑧ —
					計						0
	合計	9,525	9,507								563,243

(2) 営農経費節減効果

作物名	ha 当 たり 営農経費				ha 当たり 節減額 (円)	効果発生 面積 (ha)	年効果額 (千円)
	労働費 (円)		機械等経費 (円)		⑤ = (①+③) - (②+④)	⑥	⑦ = ⑤ × ⑥
	現況①	計画②	現況③	計画④			
水 稻 (区画整理) (水管理改良)	421,378	195,998	1,448,582	700,776	973,186	101	98,292
	414,298	195,998	1,402,101	700,776	919,625	735	675,924
	421,378	139,712	1,448,582	711,864	1,018,384	1,225	1,247,520
	414,298	139,712	1,402,101	711,864	964,823	922	889,567
	383,854	195,998	1,146,711	700,776	633,791	389	246,545
	380,432	195,998	1,127,208	700,776	610,866	886	541,227
水 稻 (水管理改良)	421,378	389,518	1,448,582	1,448,582	31,860	22	701
	414,298	382,438	1,402,101	1,402,101	31,860	115	3,664
	383,854	351,994	1,146,711	1,146,711	31,860	7	223
	380,432	348,572	1,127,208	1,127,208	31,860	202	6,436
	204,258	195,998	700,776	700,776	8,260	2,599	21,468
一般作物 (大豆) (区画整理)	223,610	71,508	517,215	315,833	353,484	290	102,510
	220,896	71,508	507,924	315,833	341,479	218	74,442
飼料作物 (青刈り とうもろこし) (区画整理)	262,196	172,516	953,206	597,021	445,865	51	22,739
	258,184	172,516	934,566	597,021	423,213	39	16,505
果菜類 (すいか) (区画整理)	2,391,860	1,986,058	2,217,257	1,648,142	974,917	17	16,574
	2,368,260	1,986,058	2,196,518	1,648,142	930,578	130	120,975
	2,356,460	1,986,058	2,178,682	1,648,142	900,942	67	60,363
	2,332,860	1,986,058	2,173,478	1,648,142	872,138	156	136,054
根菜類 (だいこん) (区画整理)	1,066,956	783,992	1,134,659	639,660	777,963	4	3,112
	1,056,808	783,992	1,119,542	639,660	752,698	27	20,323
	1,028,488	783,992	1,085,208	639,660	690,044	15	10,351
	1,024,240	783,992	1,076,052	639,660	676,640	32	21,652
葉茎菜類 (キャベツ) (区画整理)	1,521,492	1,138,110	1,655,529	1,154,502	884,409	7	6,191
	1,496,712	1,138,110	1,634,879	1,154,502	838,979	50	41,949
	1,448,568	1,138,110	1,607,011	1,154,502	762,967	26	19,837
	1,424,732	1,138,110	1,603,142	1,154,502	735,262	59	43,380
合 計							4,448,524

(3) 維持管理費節減効果

現況維持管理費 (千円) ①	計画維持管理費 (千円) ②	年効果額 (千円) ③ = ① - ②	備 考
1,311,021	306,224	1,004,797	

(4) 更新効果

対 象 施 設	最経済的 事業費 (千円) ①	還元率 ②	年効果額 (千円) ③=①×②	備 考
1. 国営かんがい排水事業				
皆瀬頭首工	2,778,448	0.0466	129,475	耐用年数50年
成瀬頭首工	1,488,337	0.0466	69,357	耐用年数50年
成瀬1号幹線用水路	165,128	0.0578	9,544	耐用年数30年
皆瀬1号幹線用水路	1,264,008	0.0578	73,060	耐用年数30年
皆瀬2号幹線用水路	1,260,798	0.0505	63,670	耐用年数40年
皆瀬3号幹線用水路	1,185,415	0.0505	59,863	耐用年数40年
皆瀬4号幹線用水路	1,494,566	0.0505	75,476	耐用年数40年
皆瀬5号幹線用水路	118,623	0.0578	6,856	耐用年数30年
皆瀬6号幹線用水路	1,115,389	0.0505	56,327	耐用年数40年
皆瀬7号幹線用水路	336,789	0.0466	15,694	耐用年数50年
計			559,322	
2. 県営かんがい排水事業				
M1-5号用水路	47,180	0.0578	2,727	耐用年数30年
M3-2号用水路	8,546	0.0505	432	耐用年数40年
M3-3号用水路	50,235	0.0578	2,904	耐用年数30年
M3-6号用水路	122,465	0.0505	6,184	耐用年数40年
M4-1-2号用水路	102,099	0.0578	5,901	耐用年数30年
M6-2号用水路	185,474	0.0505	9,366	耐用年数40年
計			27,514	

対 象 施 設	最経済的 事業費 (千円) ①	還元率 ②	年効果額 (千円) ③=①×②	備 考
3. 県営担い手育成基盤整備事業・経営体育成基盤整備事業・土地改良総合整備事業				
用水路工（幹線）	4,595,417	0.0505	232,069	耐用年数40年
（支線）	11,743,957	0.0578	678,801	耐用年数30年
小計	16,339,374		910,870	
排水路工（幹線）	2,835,091	0.0505	143,172	耐用年数40年
（支線）	16,972,510	0.0578	981,011	耐用年数30年
小計	19,807,601		1,124,183	
農道工（幹・支線）	6,133,002	0.0505	309,717	耐用年数40年
計	42,279,977		2,344,770	
4. その他（水源転換による廃用・更新施設）				
特定多目的ダム建設事業 （成瀬ダム）	18,884,332	0.0418	789,365	耐用年数80年
合 計（1. ～ 4.）			3,720,971	

（５）安全性向上効果

対象施設	投資額 (千円) ①	還元率 ②	計画年間 維持管理費 (千円) ③	年効果額 (千円) ④=①×②－③	備 考
幹線用水路 転落防止柵	837,687	0.1233	471	102,816	耐用年数10年

（６）公共施設保全効果

対象施設	維持管理費 節減効果 (千円) ①	一般交通等 経費節減効果 (千円) ②	更新効果 (千円) ③	年効果額 (千円) ④=①+②+③
橋梁工、函渠工	—	—	84,232	84,232

(7) 水辺環境保全効果

投資施設名	追加投資額 (千円) ①	還元率 ②	年効果額(千円) ③=①×②	備 考
頭首工魚道	848,667	0.0466	39,548	耐用年数50年

(8) 廃用損失額

現況施設 (廃用施設)	設置年	償却資産額 (千円) ①	残存率			廃用損失額 (千円) ⑤=①×④
			廃用時までの 使用年数 ②	今後の使用 可能年数 ③	残存率 ④=③/ (②+③)	
1. 国営かんがい 排水事業						
皆瀬頭首工	昭和38年	2,875,672	46	4	0.08	230,054
成瀬頭首工	昭和47年	509,447	40	10	0.20	101,889
成瀬1号幹線用水路	昭和54年	196,627	30	0	0.00	0
皆瀬1号幹線用水路	昭和53年	1,426,751	31	0	0.00	0
皆瀬2号幹線用水路	昭和51年	1,312,411	36	0	0.00	0
皆瀬3号幹線用水路	昭和48年	1,070,786	36	0	0.00	0
皆瀬4号幹線用水路	昭和48年	1,580,312	39	0	0.00	0
皆瀬5号幹線用水路	昭和43年	221,671	41	0	0.00	0
皆瀬6号幹線用水路	昭和41年	760,652	44	0	0.00	0
皆瀬7号幹線用水路	昭和40年	259,234	44	6	0.12	31,108
計						363,051

現況施設 (廃用施設)	設置年	償却資産額 (千円) ①	残存率			廃用損失額 (千円) ⑤=①×④
			廃用時まで の使用年数 ②	今後の使用 可能年数 ③	残存率 ④=③/ (②+③)	
2. 県営かんがい 排水事業						
M1-5号用水路	昭和53年	134,050	37	0	0.00	0
M3-2号用水路	昭和52年	13,688	38	0	0.00	0
M3-3号用水路	昭和44年	859,582	46	0	0.00	0
M3-6号用水路	昭和52年	86,839	38	0	0.00	0
M4-1-2号用水路	昭和49年	479,367	41	0	0.00	0
M6-2号用水路	昭和40年	107,154	50	0	0.00	0
計						0
3. 県営担い手育成 基盤整備事業						
ほ場整備（用水路工）	昭和30～ 45年	13,589,827	—	0	0.00	0
ほ場整備（排水路工）	昭和30～ 45年	10,216,324	—	0	0.00	0
農道工	昭和30～ 45年	6,133,002	—	0	0.00	0
計						0

現況施設 (廃用施設)			設置年	償却 資産額 (千円) ①	残存率			廃用 損失額 (千円) ⑤＝ ①×④
					廃用時 までの 使用年数 ②	今後の 使用可能 年数 ③	残存率 ④＝③/ (②+③)	
4. 水源転換により廃止される 揚水機								
(1) 反 復 揚 水 機 (土 改 区 管 理)	①口径300mm以上							
	成瀬揚水機	2台	昭和51年	434,079	41	0	0.00	0
	館合揚水機	2台	昭和55年	308,207	37	0	0.00	0
	鍋倉1号揚水機	1台	昭和60年	51,898	32	0	0.00	0
	沼館中島揚水機	1台	昭和45年	54,509	47	0	0.00	0
	牛中島揚水機	2台	昭和43年	127,557	49	0	0.00	0
	左馬1号揚水機	1台	昭和57年	63,778	35	0	0.00	0
	②口径150mm以上 300mm未満	8台	昭和49～ 63年	53,949	43～29	0	0.00	0
	③口径150mm未満	8台	昭和40～ 63年	16,895	52～29	0	0.00	0
	小計	25台						0

現況施設 (廃用施設)			設置年	償却 資産額 (千円) ①	残存率			廃用 損失額 (千円) ⑤＝ ①×④
					廃用時 までの 使用年数 ②	今後の 使用可能 年数 ③	残存率 ④＝③/ (②+③)	
(2) 地下 水揚 水機 (土改区 管理)	平成4年以前設置	227台	平成4年 以前	743,374	25	0	0.00	0
	平成5年設置	2台	平成5年	6,755	24	0	0.00	0
	平成6年設置	3台	平成6年	14,150	23	0	0.00	0
	平成7年設置	2台	平成7年	4,340	22	0	0.00	0
	平成8年設置	3台	平成8年	8,577	21	0	0.00	0
	平成9年設置	2台	平成9年	6,437	20	0	0.00	0
	平成10年設置	2台	平成10年	4,460	19	1	0.05	223
	小計	241台						223
(3) 地下 水揚 水機 (共有・ 個人有)	平成4年以前設置	1,236台	平成4年 以前	2,724,873	25	0	0.00	0
	平成5年設置	4台	平成5年	10,462	24	0	0.00	0
	平成6年設置	171台	平成6年	377,720	23	0	0.00	0
	平成7年設置	4台	平成7年	11,376	22	0	0.00	0
	小計	1,415台						0
4. 揚水機(1)～(3)計		1,681台						223

現況施設 (廃用施設)	設置年	償却資産額 (千円) ①	残存率			廃用損失額 (千円) ⑤=①×④
			廃用時までの使用年数 ②	今後の使用可能年数 ③	残存率 ④=③/ (②+③)	
5. 橋梁工						
皆瀬1号 幹線用水路 橋梁工	昭和53年	28,206	31	29	0.483	13,623
皆瀬2号 幹線用水路 橋梁工	昭和51年	98,769	36	24	0.400	39,507
皆瀬3号 幹線用水路 橋梁工	昭和48年	55,220	36	24	0.400	22,088
皆瀬4号 幹線用水路 橋梁工	昭和48年	187,533	39	21	0.350	65,636
計						140,854
6. 函渠工1 (県道、町道横断道)						
皆瀬1号 幹線用水路 函渠工1	昭和53年	827,363	31	9	0.225	186,157
皆瀬2号 幹線用水路 函渠工1	昭和51年	32,100	36	4	0.100	3,210
皆瀬3号 幹線用水路 函渠工1	昭和48年	15,060	36	4	0.100	1,506
皆瀬4号 幹線用水路 函渠工1	昭和48年	42,771	39	1	0.025	1,069
皆瀬5号 幹線用水路 函渠工1	昭和43年	10,867	41	0	0.000	0
皆瀬6号 幹線用水路 函渠工1	昭和41年	144,105	44	0	0.000	0
計						191,942

現況施設 (廃用施設)	設置年	償却資産額 (千円) ①	残存率			廃用損失額 (千円) ⑤=①×④
			廃用時まで の使用年数 ②	今後の使用 可能年数 ③	残存率 ④=③/ (②+③)	
7. 函渠工2 (農道横断道)						
皆瀬1号 幹線用水路 函渠工2	昭和53年	150,430	31	9	0.225	33,847
皆瀬3号 幹線用水路 函渠工2	昭和48年	15,060	36	4	0.100	1,506
計						35,353
合 計 (1. ～7.)						731,423